

事業&活動報告

千葉市民活動フェスタ2022

今年は、シン・フェスタ 未来の千葉が見えてきた

2020年・2021年は『集まらないフェスタ』を余儀なくされましたが、今年はようやく対面プログラムが実現しました。

■開催日：対面プログラム：11月19日(土) 10時～16時
オンラインプログラム：11月6日(日)～12月4日(日)

対面プログラム…きばーるアトリウム

【相談、体験、物販】

以前のように80もの団体が並ぶことはできませんが、20団体程度が十分な間隔をとり、安全に配慮して出展します。相談、体験、物販など、いろいろな分野の団体が参加して、来場者にも楽しい空間になりそうです。

【シン・企画「交流ひろば」】

参加団体も、通りかかった人も、一緒に楽しんでいただける抽選会を開催します。景品は団体からの提供品。当たった人にプレゼントを手渡す際に、団体のPRができるという「提供団体特典」があります。開催は11月19日12時から13時。(その場にはないと景品はもらえません。)

オンラインプログラム…特設ウェブサイト

【市民活動団体紹介ページ】

文章と写真で、参加42団体のプロフィールを紹介します。

【ちばさぽTV】11月19日(土)の対面プログラムの様子を11月下旬頃アーカイブ配信します。

【シン・企画「1分シアター」】

団体紹介ページとは別に、1分程度の短い動画だけ集めた、カタログ的なページを公開します。これを機会に動画を作成したい団体のために、見れば作れるガイドブックを作成。動画を一緒につくるワークショップも10月23日(日)・11月7日(月)に開催しました。



Q&A? センターにある図書を借りることはできますか?

当センターの図書コーナーに配架している図書は登録団体の皆様には貸し出しが可能です。貸出期間は原則として2週間となります。NPO・市民活動に関する書籍から、まちづくりやボランティア活動、イベント企画に関する書籍などを多数置いてあります。また、定期的に新たな書籍も購入し配架しています。特に最近はオンラインでの会議や打ち合わせをする機会も多くなりました。そこで「Zoom活

用法」や会議の進め方「ファシリテーター」に関する書籍に加え、大事なことを伝える「話し方」なども揃えています。図書コーナーは入口より左方向の談話室に向かう通路左側壁面にありますので、ぜひご活用下さい。



ミニコラム

ちばさぽの風 vol.52 千葉市(各区)の補助金「地域活性化支援事業」に挑戦してみませんか?

市民活動団体の主な収入源(資金調達方法)には、会費や寄附金、事業収入などがありますが、もう一つ忘れてならないものとして、「補助金・助成金」があります。補助金・助成金(以下「補助金」と表記します)は、行政機関や民間の助成財団等から提供される、返済が不要な資金とすることができますが、単に条件を満たすだけでは獲得することができません。募集に対して、団体が実施したい事業を具体的に提案して(応募をして)、審査を通過して初めて獲得できるものです。

一口に補助金と言っても募集要項は様々で、対象となる事業の分野が定められていたり、団体の要件が厳しかったりするものもあります。特に初めて応募をしようとした場合、ハードルが高いと感じられるかもしれません。そんな団体におすすめなのが、千葉市(各区の地域振興課)が募集する「地域活性化支援事業」という補助金です。おすすめのポイントとしては、以下の点が挙げられます。

- ・地域課題の解決やまちの活性化など、幅広い分野の取り組みが対象となる。
- ・法人格のない団体でも応募ができる。
- ・身近な区役所が応募先であり、気軽に相談もできる。(※これらは過去の募集要項を参照したもので、実際

に応募される際は、当該の募集要項をご確認ください。)

募集スケジュールは各区で異なりますが、これまでは、募集期間が12月から1月にかけて設定されている区がほとんどでした。ただ、若葉区では、令和5年度に実施する事業を対象に、既に募集が開始されています。(応募締切は、12月16日(必着)です。)他の区でも、おそらく徐々に募集要項が発表されると思われます。

なお、一般的に補助金は、募集要項で補助の対象となる経費が定められていますし、応募の際に提出した事業計画や収支予算に沿って事業を行う必要があります。つまり、審査を通過して補助金を獲得できたとしても、その資金の使い道を団体で自由に決めることはできません。

特に事業収入を上げることが難しい団体にとって、補助金は、実績をつくるという観点からも貴重な資金源となります。年末に向けて忙しくなってくる時期だとは思いますが、この機会に「地域活性化支援事業」への応募を検討してみたいかでしょうか?

補助金

